

講座・部門紹介

URL <http://www.fmu.ac.jp/home/biomol/biomol-top.htm>

生体物質研究部門では、細胞外刺激に応答する細胞内の情報の流れを分子レベルで解析することに取り組んでいます。特に、持続的ストレス刺激が惹き起こす異常な細胞増殖や細胞死について、その歪められた情報経路を検出し疾患特有の分子メカニズムを理解することを目指しています。その際、患者さんから提供されたサンプルを用いた研究に重きをおいているのが大きな特徴です。研究の成果を病気の予防や新しい治療法の開発に生かしていこうと考えるからです。

当研究部門は、共同研究を積極的に行い病態メカニズムの解明に取り組んでいます。

staff スタッフ紹介



教授 本間 好

昭和50年 福島県立福島高等学校卒業

昭和54年 筑波大学第二学群卒業

昭和56年 筑波大学医学研究科修士

昭和59年 筑波大学医学研究科修士

教育専門分野

生化学、情報伝達学

研究分野

1) 細胞増殖シグナル

2) 脂質代謝

3) 酸化ストレス

趣味：研究

研修医、臨床医入学時の研究分野

1. 疾患由来細胞の樹立
2. タンパク質発現のアレイ解析
3. 細胞内情報伝達系の解析
4. 病態メカニズムの理解
5. 種々の手法を用いた情報系制御の試み
6. 新しい治療法確立へのアプローチなど

講座・部門の主な研究内容

1. 細胞増殖関連シグナル分子の機能解析
2. 細胞周期関連分子の機能解析
3. 酸化ストレス受容分子機構の解明（肺線維症をモデルとして）
4. 消耗性炎症性疾患のシグナル解析（関節リウマチ滑膜細胞をモデルとして）
5. 脂肪酸代謝機構の解析
6. タンパク質発現のエピジェネティック制御の解析

講座・部門からのメッセージ

当研究部門メンバーは大学人として、教育・研究を通して人材の育成に貢献することを最大の責務と考えています。そして、単に学位取得を目的とするのではなく、疾病の根本的な理解と治療には基礎研究が必須であることを理解してもらうように心がけています。

これまで、内科、皮膚科、眼科、小児科、整形外科など多くの臨床科から大学院生を受け入れ、全員に学位を取得していただき、現在、その多くは臨床および基礎のスタッフとして大学で活躍しています。また、世界に誇れる成果を出し留学した医師もおります。

今後とも情熱を持って研究・教育に邁進していきます。興味を持たれた方は、一度、研究室を訪ねてみてください。